

着付師としてのマナー

着付師へのクレームとして最も多いのは

「着崩れた」「苦しい」といった着心地に関するものです。

こればかりが注目されがちなのですが、意外と多いのが

「着付師の態度やマナー」に関するクレーム。

これらはお客様としても指摘しにくいので表面化しにくいですが、実は多くのお客様が着付師のマナーに対して不快に思っているのです。

それに気づかずにいるのは技術者として大変もったいないことです。

素晴らしい技術をいくら身につけても、マナーができていないことで評価が下がるのは損でしかありませんよ。

ここでは、着付師としてのマナーについてお話ししていきます。

正直言ってどれも**至極当たり前**のことです。

でもこれができない。特にベテランになる程やってしまいがちなので、自信と経験がついてきた頃に再度見直してほしいと思います。

目次

- 1、言葉遣いについて
- 2、挨拶の仕方
- 3、着付師の格好について
- 4、着物などの扱い
- 5、着付け中の距離感
- 6、リクエストをいただいたときの対応について

1、言葉遣いについて

敬語を使ってください。

例えモデルさんが自分の娘よりも若いような人であっても、必ず敬語を使いましょう。

何歳だったとしても相手は「お客様」です。

あなた自身をプロと認めてお金を支払い、大事な日の一端を信頼して任せているのです。

それなのに相手がタメ口を使って上から目線できたら、どう考えたって不愉快です。

もしくは、馬鹿にされます。

「着付師のおばちゃんの真似」って、素人からプロの芸人さんまでネタとしてやっています。

中には「緊張しているお嬢様を安心させてあげたいから」という理由でタメ口を使っているという人がいますが、それは違います。

緊張を解く＝タメ口 ではないはずです。

敬語を使っても口調や表情などでいくらでも緊張を解いてあげることができます。

あまり固くなる必要はありませんが、敬語だけは崩さないようにしてください。

2、挨拶の仕方

人は第一印象が大事です。そして、**第一印象は3~5秒で決まると**されています。
メラビアンの法則では、第一印象を決める要素として「視覚情報」「聴覚情報」「話の内容」が提唱されており、**視覚情報が55%、聴覚情報が38%、話の内容が7%**とされています。
目から入ってくる情報が90%以上を占めるため、**見た目や仕草、表情、声のトーンなどから多くの情報を無意識のうちに処理し、総合的な印象を作り上げる**と考えられています。

お客様と対面したら、まずは笑顔で挨拶をしましょう。

「こんにちは！着付けを担当させていただきます、〇〇（会社、教室名など）の〇〇（名前）と申します。本日はどうぞよろしくお願いいたします！」

声もいつもよりワントーン高くしてください。

この第一印象によって、この後一緒に過ごすお客様との時間の質が変わります。

「この人をお願いしてよかった」と思っていただけのように、最初の挨拶は全力でしましょう。

また、出張着付けでお客様のお宅に伺う際の注意点についてもお話しします。
玄関先で元気に挨拶し（早朝の場合、近所迷惑になるので大きな声は出さないでくださいね）
促されたらお部屋に入ります。
靴はそのまま脱いで上がり、振り返ってしゃがんで揃えましょう。
新しい靴下を持参し、一言断ってから玄関先で履かせていただくとともに丁寧です。
（裸足で上がることはやめてください）

着物を触る前に、可能であれば手を洗わせてもらってください。ハンカチは持参で。
正直散らかっててあんまりいるんなところに入られたくなさそうなご家庭であれば、
手をアルコール消毒をすると良いです。ウェットティッシュで拭いてください。

3、着付師の格好について

着付師の格好でも第一印象は大きく変わります。
最も大事なものは清潔感。
こちらの動画でお話ししています。

<https://vimeo.com/517455894/860cb7f84d?share=copy>

4、着物などの扱い

お客様の着物や帯、小物など全ての物の扱いは、丁寧に行いましょう。

基本的に着物は高級品です。

ずっと触れていると慣れてしまい、雑に扱ってしまうことがあるのですが、

「もしかしたらこの着物は100万円以上するかも」という気持ちで扱ってください。

特に準備する際など、お客様は意外と見てるものです。

大事な着物を雑に扱われたら嫌ですよね。

普段の練習から大切に扱うことを意識して、自分の中に刷り込んでくださいね。

5、着付け中の距離感

着付けに集中しすぎるとモデルさんに近くなりすぎることがあります。
知らない人に抱きつかれるのはちょっと…
と思うのが普通ですから、気をつけましょう。
詳しくはこちらの動画でお伝えしています。

<https://vimeo.com/526850407/be3dd414d2?share=copy>

6、リクエストをいただいたときの対応について

振袖でよくあるのが、帯結びなどのリクエスト。

最近ではInstagramなどSNSを見て「これにしてほしい」とリクエストされることもあります。

個人で請け負う出張着付けであれば、事前にリクエストがあるか聞いてみて練習しておきましょう。

ただ、直前に言われて対応できないこともあります。そういった場合などにどう対応するのか、こちらの動画でお話ししています。

<https://vimeo.com/1002189609/75ee0afb39>

いかがでしたか？

少し厳しめにお伝えした部分もありますが、全ては一流の着付師として活動するために必要な要素です。

今一度ご自身の行動を振り返って、できてる部分は自分を褒めてください。

できていない部分は今後のために直す努力をしてくださいね。